

院内教育研修に対する意識調査

アンケートによる意識調査を通して

大阪府 医療法人聖志会渡辺第二病院

○浅田 弥穂 柳田 勝

Key Words

院内教育 意識調査

I. はじめに

従来からいわれていたように、医療の進歩は、めざましく、看護師の生涯教育の重要性が叫ばれている。

当院では、3年前に ISO9001 の認証を受けたことを契機に、職員教育にも重点をおいてきた。

教育は、大切でありながら、通常の業務との調整が困難であり、しばしば、中断されたり、思ったほどの参加者や効果が得られないことがある。当院では、教育、研修は、出張による院外研修参加と①各部署（病棟）ごと②月1回の病院全体の研修の他に、勤務後の自主的参加の研修を行っている。

また、職員が、院内研修に継続的に参加できるよう同じ内容が、少なくとも2回以上行われている。最近では、講師は、医師が6割、外部講師が1割、看護部が2割、栄養課が1割が担当している。

今回、院内研修が、看護スタッフにとって、どのような効果、影響を及ぼしたのか、アンケートによる意識調査をおこなったので、若干の考察を加え報告する。

II. 研究目的

院内研修により、看護スタッフの看護への取り組みがどのように影響したのか、また効果的な研修内容は、どれであったのかを、意識調査により明らかにする。

III. 研究方法

1. 対象者：病棟看護師 72名

2. 当院の概要：病床数 336床であり、その内訳は、老年期認知症病棟 109床、精神科療養病棟 60床、特殊疾患療養病棟 167

床であり、認知症に特化した精神科病院である。

3. 調査機関：平成19年3月1日～3月15日

4. アンケート調査方法：無記名選択式

5. アンケート調査内容：

1) 良い影響があったか？

2) 意欲が出てきたか？

3) 技術が向上したか？

4) 知識が増加したか？

5) 良かった研修内容はどれか？

6) 認知症ケア専門士試験を受験したか？

IV. 倫理的配慮

アンケートは、無記名とし、回答者が特定されないようにした。また、計画書を倫理委員会に提出し、承諾を得た。

V. 結果

1. 回答数： 68名

有効回答数： 62名

年齢構成

20歳台 14%

30歳台 53%

40歳台 22%

50歳以上 26%

2. アンケート

1) 1年間の参加数

0～9回 14%

10～19回 14%

20～29回 31%

30～39回 19%

40～49回 13%

50回以上 9%

2) 以下の質問に対して、①効果があった、②少し効果があった、③変化はなかった、

④少し悪化した、⑤悪化した、と5段階に分け、回答を得た。

i) 良い影響があったか

①43%②39%③18%④0%⑤0%

ii) 意欲が出てきたか

①34%②53%③13%④0%⑤0%

iii) 技術が向上したか

①8%②74%③18%④0%⑤0%

iv) 知識が増加したか

①27%②68%③5%④0%⑤0%

v) 良かった研修は何か? 2個選択 (3個以上も回答可) 降順に列挙

認知ケア 43%

心電図 31%

栄養学 27%

褥創 26%

接遇 18%

行動制限 13%

医療事故 14%

理学療法 14%

人権 9%

血液検査 9%

介護技術 8%

画像診断 6%

感染対策 3%

医療制度 2%

vi) 認知症ケア専門士を受験する(受験した)看護師は、48%であった。

vii) 特記事項として

2名から、出たい内容の研修が勤務の都合で出席できず、残念に思う内容の特記事項があった。

VI. 今回の調査結果を受けて、2名の看護師に具体的なインタビューを行い、その結果を紹介する。

A) 30歳台：女性：看護師、B) 30

歳：女性：看護師

質問1) 院内教育は、あなたにとって、どのような良い影響がありましたか?

A) 最新の専門知識の情報収集が楽になった。

B) 自分も講師として発表の場を与えられて自信がついた。

質問2) 院内教育によって、周りのスタッフは、どのように変化しましたか?

A) 皆で、助けられる疾患(患者さん)が増えたような感じがする。

B) ケースカンファレンスの皆の発言量が増えた。

質問3) 院内教育によって、病院全体はどのように変化しましたか?

A) みんな勉強しないといけない雰囲気が芽生えた。

B) 最近、院内の医療機器が、看護師の知識の増加に比例して良くなった。

質問4) 身体合併症の看護に院内教育はどのように役に立ちましたか?

A) 私は、以前から、身体疾患の看護の勉強はしていたが、自分の知識の再確認の場に調度良かった。

B) 医師と有意義な意見交換ができるようになった。

VII. 考察

今回の意識調査で、8割の看護師にとって、院内研修が好ましい影響を及ぼしていることがわかった。良くないとする意見は、全く認められなかった。特に、日頃の看護業務の意欲向上につながったとする結果がでた。ただ、講義形式の研修では、技術指導に効果が少なかった。

よかった研修内容は、認知症ケアに関する研修が一位で、次に心電図、栄養学と続いたことは、病院が認知症に特化していることが影響しているとも考えられた。

成書によると、病院の卒後研修の研修の回数は、年間12回程度であり、当院の年間50回以上の参加数は、突出しているものと考えられた。

また、看護師の約半分が、認知症ケア専門士の資格取得を目指していることがあきらかになり、モチベーションの高さを反映していると思われた。

最後に、個別に聞き取ったインタビューにおいても好意的な意見が得られた。

VII 参考文献

あなたのできる精神科プリセプター 精神看護出版 2005